令和５年１０月

保護者・地域の皆様へ

【小学校版】令和５年度全国学力・学習状況調査の結果

菰野町教育委員会

令和５年４月１８日に、小学校６年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解とご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童質問紙調査からみられた本町の児童の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取り組みについてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、国語、算数の２教科で実施されました。本町では、国語は、全国の平均正答率を上回る結果となりました。算数は、全国の平均正答率を下回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【小学校　国語】

≪おおむね理解している問題≫

◇　インタビューの相手に対する質問の理由を捉える問題。　（正答率：約８割）

・　インタビューの相手に「すてきな姿というのは、どのような姿ですか。」と質問した理由として適切なものを選択することができます。

≪課題がみられた問題≫

◆　グラフを用いて、考えが伝わるように工夫して書く問題。（正答率：約２割）

・「グラフ」と「カード④」「カード⑤」をもとに、条件に合わせて学校の米作りの問題点と解決方法について書きまとめることに課題がみられます。

課題がみられた問題

二　川村さんは、選んだカードをもとに、次の【川村さんの文章】の□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、□に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

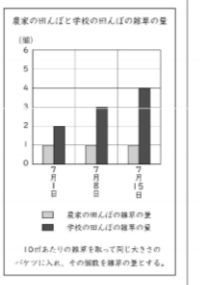
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイ くらべてみました。ウ きかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下じゅんにお米をしゅうかくすることができました。

【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきょうするのではないかと心配だ。

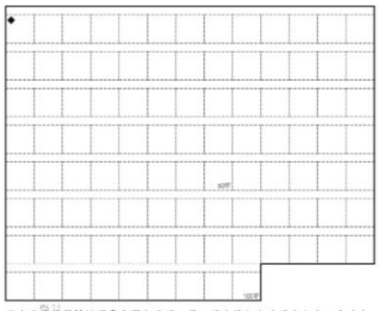
【カード②】
6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法　週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査きかん　7月1日～15日

【カード③】
7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】
7月20日
［農家の石山さんのお話］
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】
7月21日
［学校でできる解決方法］
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

〈条件〉
○　学校の米作りの問題点については、【川村さんの文章】のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
○　問題点の解決方法については、【カード⑤】をもとにして書くこと。
○　六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。



※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

≪今後の学習の手立て≫

考えを分かりやすく伝えるために「どのようなグラフを使うとよいか」「グラフの特徴をどのように書き表すとよいか」について児童が自分で考える学習場面、ペアやグループで考えを伝え合う学習場面、友だちの助言を参考にして文章に書きまとめる学習場面を大切にします。

経年的に示された条件に合わせて文章を書くことに課題が見られます。文章やグラフから読み取った内容を条件に合わせて文章に書きまとめる学習活動を計画的に設定していきます。

【小学校　算数】

≪おおむね理解している問題≫

◇　（　）を用いた式や加法と乗法の混合した式を具体的な場面と関連付けて読み取る問題

（正答率：約７割）

・国語辞典と漢字辞典を並べた長さを求める２通りの式「５×２８＋４×２８」「（５＋４）×２８」について、式の中の数や計算が何を表しているのかを読み取ることができます。

◆　三角形の底辺と高さの関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を記述する問題。

（正答率：約２割）

・三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さに着目し、形が異なっても底辺と高さが等しければ、面積も等しくなることを言葉や数を使って説明することに課題がみられます。

課題がみられた問題

(4)　えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㋐と㋕の２つの三角形をつくります。

上の㋐と㋕の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の **1** から **4** までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1　㋐の面積のほうが大きい。

2　㋕の面積のほうが大きい。

3　㋐と㋕の面積は等しい。

4　㋐と㋕の面積は、このままでは比べることができない。

≪今後の学習の手立て≫

図形の面積の学習では、面積を求めるために図形のどの部分の長さが必要であるか判断する場面を設定することが大切です。多くの辺の長さが示されている問題場面を学習課題として提示し、例えば、三角形の面積を求める時、「どの辺の長さが必要か」を考え、選び出す学習場面を設定します。

今回の調査問題の㋕の三角形のように、高さが底辺の外側にある三角形の高さを捉えることに経年的な課題が見られます。三角形の高さは底辺に対して垂直であることを繰り返し確認したり、どの部分が高さになるのかを児童に説明させたりする学習場面を大切にしていきます。

児童質問紙調査からみられた好ましい傾向

菰野町の子どもたち

人の役に立つ人間になりたい	先生は、あなたのよいところを認めてくれている	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	人が困っているときは、進んで助けている
96.2%	91.5%	99.5%	93.6%
（全国 95.9%）	（全国 89.8%）	（全国 96.9%）	（全国 91.6%）

※子どもたちが児童質問紙で肯定的に回答した割合が全国より高かった設問より

菰野町では、教育活動全体において、子どもたち一人ひとりをほめたり、認めたり、励ましたりしながら自尊感情を育むこと、仲間と安心して学び合える学習環境をつくることを大切にしてまいりました。

今後も、子どもたち一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたり、お互いを認め合ったり助け合ったりする教育活動を推進し、子どもたちが将来の夢や目標の実現に向かって自信を高めていけるよう

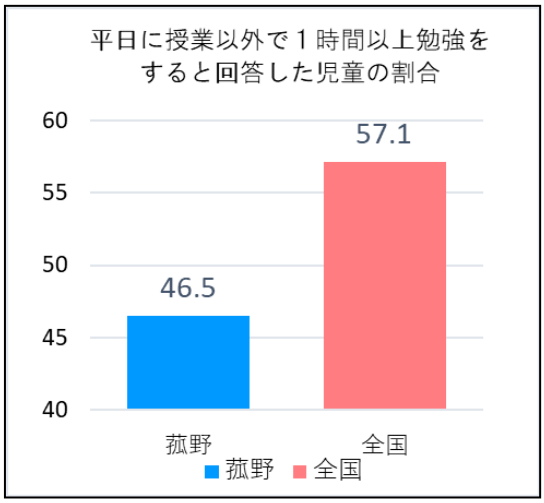
努めてまいります。

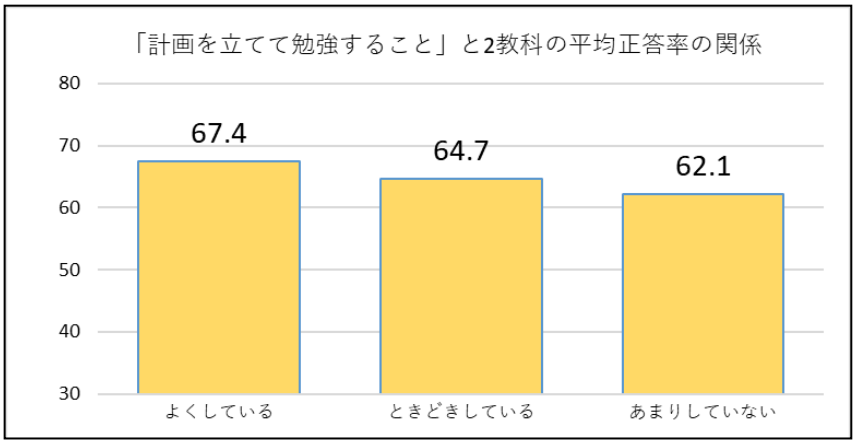
また、菰野町の子どもたちは、保護者・地域の皆様に支えられ、すこやかに成長しています。今後も保護者・地域の皆様と連携・協働して地域ならではの特色を生かした学校づくりを進めてまいります。

ご家庭でお願いしたいこと

児童質問紙調査からみられた課題

Q　学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか





授業以外で１時間以上勉強をしていると回答した児童の割合は、昨年度に引き続き全国と比べて低く、低下傾向にあります。

家で自分で計画を立てて勉強（予習や復習をふくむ）をしている児童ほど、２教科の正答率が高い傾向にあります。

家庭で学習する習慣を身につけさせましょう

子どもたちに学校で学習した内容を定着させるためには、家庭での学習習慣を身につけさせることがとても重要です。繰り返しの練習や授業の予習・復習に日常的に取り組むことで、基礎・基本が確実に定着していきます。

子どもたちが毎日の家庭学習に取り組むことができるように、励ましの声かけや学習に集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。

また、ゲームをする時間やスマートフォン、タブレットの使用時間が長時間とならないように、見守りや声かけもお願いします。

菰野町では、家庭学習の充実ために「家庭学習の手引き」を作成し、子どもたちと保護者の皆様に配付しています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取り組みについて、振り返っていただきますようお願いします。

保護者・地域の皆様へ

菰野町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」の育成をめざして、子どもたちが「わかる・できる喜び」を実感できる授業改善と学力向上に向けた取り組みを進めてまいります。

今後も、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの成長を支えてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。